



TTCJ 2017年9月視察研修旅行レポート

訪問先：静岡県立静岡がんセンター

日時：2017年9月14日（木）13：20～15：10

13:20 静岡県立静岡がんセンターに到着。総合受付でよろず相談の窓口に行くように指示され、今回の窓口になっていただいた小林さんにお会いした。小林さんの先導で研究所大会議室に案内された。小林さんのプレゼンテーションの概要は以下の通り。

まずがん検診率がなかなか上がらないこと、がんは早期発見で生存率が高まることなど一般的な話から入り、徐々に静岡がんセンターの独自な取り組みと成果の話になっていた。その基本理念は「患者さんの視点の重視」ということで、患者さんへの三つの約束を掲げている。

- 「1. がんを上手に治す
2. 患者さんと家族を徹底支援する
3. 成長と進化を継続する」

1はどこの病院でも目指していることだと思うが、2がユニーク。この実現のために「よろず相談」という私たちが最初に伺った窓口が設けられ、センターやがんに関するあらゆることに相談できる体制が整えられている。3については常に最先端医療（技術）を導入している。例えば、手術支援ロボット「ダヴィンチ」や全国に12か所しかない陽子線治療施設など。

静岡がんセンターの組織図、実績、概要についての説明や緩和病棟の併設、患者、家族のための図書館などの施設の紹介の後に、静岡がんセンターにある研究所ではがんそのものの研究（遺伝子研究など）以外に「ファルマバレープロジェクト（富士山麓先端健康産業集積）」という産官学金連携の今後の発展が楽しみなプロジェクトを行っている。実際に成果が現れていて静岡県の医薬品＋医療機器の生産額は3年連続日本一という話で締めくくられた。

プレゼンテーションの後は TTCJ の参加者からとの質疑応答。

- ・病院経営については黒字を維持している。
 - ・海外からの受入れ状況は、希望があれば仲介機関を通じて受け入れている。
 - ・食材を近隣の農家から仕入れる可能性について話を 10 年前に伺ったがその後はどうかとの質問に、なるべく地元の食材を使うようにしていると思うとの返事であった。
- …など活発な質疑応答の時間であった。

質疑応答の後は館内を案内していただく。放射線・陽子線治療センターでは陽子線治療の施設模型を見ながらいくつかの放射線治療の現状について説明を聞く。

11 階に上がり、眺望の良いレストラン、カフェを見学。レストランからは駿河湾、カフェ側からは富士山が見える。(当日は晴れてはいたものの山のほうは霧がかかっているようで海は見えたと富士山は見えず) また、隣接していた学校が廃校になった後に「ファルマバレープロジェクト」の拠点施設がそこに入っていることの説明を受けた。

下に降りて、庭を案内していただく。バラ園、日本庭園などゆったり気持ちよく過ごせる空間が広がる。町の人口が 4 万を超え、財政状況も良いとのことで住みやすい住環境にあることを告げられる。

最後に最初の場所(「よろず相談」)に戻って記念撮影。以上、約 1 時間 50 分の静岡がんセンターの視察であった。

(文責：TTCJ 事務局 IY)